

酒田つ子 すくすく子育て講座 第151回

東北公益文科大学 名誉教授 國眼 眞理子 先生

ゲームとの付き合い方

「もう時間よ」「約束だよ」とゲームに夢中のマアちゃんに、ママが声を掛けます。「今いいとこなんだよ」「もうちょっと」「ほらほら、時計を見てごらん」「いいとこなんだけどな」とゲームへ未練たつぶりのマアちゃん。ゲームを巡るこんなやりとりは、多くの家庭で見られるのではないのでしょうか。

このゲームとの付き合い方について、歌人の俵万智氏がゲームをやりがつてキリがなかったわが子に「ゲームはおやつ」という面白い見方を提案しています（「生きる言葉」新潮社）。

ゲームの面白さを認めたくえで「ケーキやポテチがおいしいから」といつてそればかり食べていたのでは大きくなれないし病気になるってしまふ。おやつは時間や量を決めて食べるように、ゲームも時間を決めて楽しくやろう」というわけです。

マアちゃんいわく、やるべきこ

とをやらずにゲームをしていると「そろそろまずいな」と感じるし、それを先伸ばしているのだんだん気持ちが悪くなってくるのだそうです。そこへ大人から「ほらほら、ゲームばかりやってないで」「宿題はやったの?」「明日の準備は?」と言われるとイライラは急上昇。でも、自分で決めたルールを守ってゲームをする「すっきりした気分になる」と言います。

ゲームについては、それぞれの家庭でルールを工夫されていると思いますが、時間で区切るやり方とともに、子どもが主体となつて決める・守れるルール作りがポイントです。そしてルールが守れたら「ちゃんと守れたね。えらいね」と褒めて、自分の行動をコントロールできたことを大いに認めてあげてください。「自律性」や「有能感」を育むよい機会になります。

日本海と大地がつくる 水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク



第140回 国観光物産課にぎわい創出事業係
☎2615759



ユネスコ世界ジオパーク申請に向けて
事前確認調査が行われました

鳥海山・飛島ジオパークは、日本ジオパーク認定から10年目の今年、その活動を飛躍させるべく、ユネスコ(UNESCO、国際連合教育科学文化機関)世界ジオパークへの認定に向けて動き始めました。令和8年5月の日本ジオパーク委員会(以下、JGC)での公開プレゼンテーションを経て、7月20日から4日間、JGCの3人の調査員が世界ジオパーク申請への準備状況の確認調査を行いました。調査は、中田節也前委員長をはじめ、下田一太委員長と島原半島ユネスコ世界ジオパークの森本拓専門員が担当しました。天候にも恵まれ、調査員は飛島を含む酒田市内、遊佐町、秋田県にかほ市、由利本荘市全ての主なジオサイトを巡り、ジオサイトの整備状況やガイドの活動、認定商品など多岐にわたる項目を確

認しました。特に、にかほ市のジオサイトである九十九島は、鳥海火山と地震活動の歴史と、水田を拓き景観を守った人々の努力が学べる場所として、重要な価値を持つとされ、また飛島での海岸ごみ対策に取り組むボランティアの継続的な展開も評価されました。今後、調査結果がJGCで承認・推薦されれば、令和9年にユネスコ世界ジオパーク委員会による正式な現地調査が実施される予定です。

これからも多くの来訪者に感動を与える場所として継続するために、地域の皆さんとともに活動を進めていきたいと思っています。



日本ジオパーク委員会委員長
鳥海山・飛島ジオパーク
推進協議会アドバイザー
宮原 育子氏



▲現地確認の様子(みなとオアシス酒田)